

# 北海道の多自然川づくりガイド

## ～川づくりの評価&事例集V～

平成 30 年 3 月

北海道河川環境研究会

藻琴川



## 北海道の多自然川づくりガイド発刊の経緯

平成 2(1990)年に、河川が本来有している生物の良好な生息・生育環境に配慮し、あわせて美しい自然環境を保全あるいは創出する「多自然型川づくり」はパイロット的に実施するモデル事業として位置づけられ、代表的な河川において取り組みが開始されました。その後、平成 9(1997)年には河川法が改正され、「河川環境の整備と保全」が河川法の目的として明確に位置づけられ、「多自然型川づくり」はすべての川づくりにおいて実施されるようになりました。

また、平成 18(2006)年には「多自然型川づくり」という呼び方は、特定の河川や特定の場所で行うモデル事業であるかのような誤解を与えるため、「多自然川づくり」と呼ぶようになり、現在では多自然川づくりをすべての川づくりの基本とし、瀬や淵、河畔林等河川空間を構成する要素への配慮、河川全体を視野に入れた計画づくり、自然再生事業等における流域の視点からの川づくりへと、より広い視点からの取り組みも実践されるようになりました。

しかし、多自然川づくりが定着する一方で、画一的な標準横断での施工や、河床・水際を単調にするなど、課題の残る川づくりも少なくありません。また、河川環境の現状把握が不足していたり、川づくりの目標が明確でないまま取り組んでいる場合は、川づくりの評価・検証が十分に出来ていない状況であります。このため、国土交通省では、平成 18(2006)年に「多自然川づくり基本指針」、平成 20(2008)年に「中小河川に関する河道計画の技術基準(H22(2010)年改訂)」を定め、課題が残る河川づくりの解消と川づくり全体の水準を向上させるための技術的な検討と仕組みづくりに取り組むよう求めています。

これを受けて北海道では、平成 22(2010)年より、「北海道河川環境研究会 (H9(1997)年設置)」と新たに設置した「河川技術検討委員会多自然川づくりワーキング・グループ (H22(2010)年設置)」が連携を図りながら、北海道の川づくり評価をテーマに、「多自然川づくり」に関する技術的な課題について検討・整理しているところであります (図-1)。



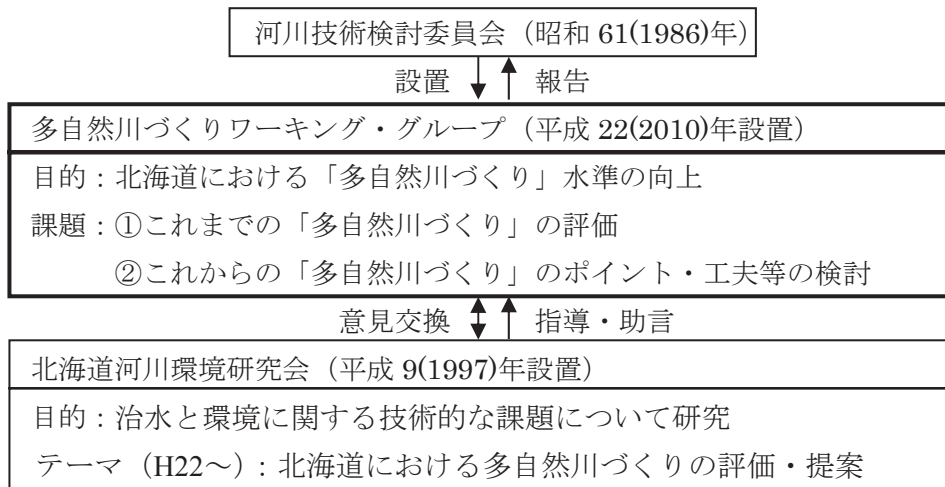


図-1 河川環境研究会との連携

本ガイドは、北海道河川環境研究会および多自然川づくりワーキング・グループにおける現地調査や議論・意見交換により積み重ねた検討の成果を取りまとめたものであり、「北海道の川づくり基本計画（H6(1994)年）」、「多自然川づくり基本指針」、「中小河川に関する河道計画の技術基準」及び「多自然川づくりポイントブックⅢ<sup>1)</sup>（H23(2011)年）」の内容を踏まえつつ、北海道の川づくりを考え、実践していくうえで手助けとなるように作成したものです。第1章では、多自然川づくりのポイントや工夫等を提案するとともに、維持管理や川づくりに関する取り組みについて整理しています。第2章では、新たに考案した『北海道の川づくり評価基準』を用いて、これまで北海道建設部が行ってきた「多自然川づくり」のうち、多自然川づくりワーキングにて紹介された延べ108事例の評価結果を整理しました。そして、第3章では、多自然川づくりワーキングにて紹介された川づくり事例について紹介しています。

これからも多くの現場で多自然川づくりを実践する中で、そこで得たノウハウや最新の知見を盛り込むなどして、2年に1回程度改訂しながら、本書のアップグレードを図っていきたいと考えています。

# 目次

## 第1章 北海道における「多自然川づくり」のポイント

○北海道の川づくり基本計画の概要	2
1-1 河岸・水際の工夫	6
1-2 河床・みお筋の工夫	10
1-3 護岸の工夫	15
1-4 植生の工夫	19
1-5 維持管理	22
1-6 その他検討項目	28

## 第2章 北海道における「多自然川づくり」の評価

2-1 北海道の川づくり評価基準	56
2-2 北海道の川づくり評価結果	101

## 第3章 北海道の川づくり事例集V

3-1 北海道の川づくり事例集	106
-----------------	-----

## 第4章 参考資料

4-1 多自然川づくり基本指針	300
4-2 中小河川に関する河道計画の技術基準	302
4-3 北海道河川環境研究会の開催状況	312
4-4 多自然川づくりワーキング・グループの開催状況	329
4-5 参考文献	331

